

CONTENTS

第25回研究大会の延期のお知らせ----- (1)	新規入会者と会員資格のお知らせ----- (3)
大会シンポジウム 趣意書 (暫定) ----- (1)	寄贈図書 (2019年5月~2020年4月) ----- (3)
歴史資料セッション 趣意書 (暫定) ----- (2)	会誌『東アジア近代史』論文投稿の募集----- (3)
会費納入について----- (3)	

第25回研究大会の延期のお知らせ

2020年7月4日(土)・5日(日)に予定していましたが、今年度の研究大会は、新型コロナウイルス(COVID-19)の感染拡大に伴い、今年の秋以降に延期することになりました。開催時期については、今後の状況をみて、あらためてお知らせいたします。

なお、第25回の大会シンポジウムのテーマは「スポーツと東アジア—国家/帝国、国民/民衆—」、歴史資料セッションのテーマは「歴史資料としての近代宗教関係文書—保存と活用の実現に向けて—」と決まりました。趣意書(暫定)は以下のとおりです(プログラムについては、今後変更になる可能性もございます)。どうぞご期待ください。

大会シンポジウム

「スポーツと東アジア—国家/帝国、国民/民衆—」

趣意書(暫定)

東京で2回目のオリンピック大会が予定されている。そこで今回のシンポジウムのテーマは「スポーツと東アジア—国家/帝国、国民/民衆—」とした。オリンピック開催を意識したシンポジウムは枚挙にいとまないが、本学会としてはこれまで東アジアにおける近代国家の成立や、国家相互の関係を、国境・領域や冊封・朝貢というような観点から検討してきた。いっぽうその領域内に住む人々については、人の移動や国籍の問題などから議論を進めてきた。これを承けて、今回のシンポジウムでは、スポーツを題材として、それが東アジアにおける国家や社会・人々といかなる関係にあったのかを、さまざまな競技・大会、そしてそれに関わった選手や団体・地域・国家、そして国家間関係などを通じて見る。

これまで近代におけるスポーツを分析する視点としては、兵士の供給源として健全なる身体を作る側面や、スポーツ・イベントを通じた宣伝や国民意識形成などにつながったことや、それが国際関係に及ぼした影響やスポーツによる国際交流という側面についても検討されてきた。さらに近年では、高嶋航『帝国日本とスポーツ』(2015年)やシュテファン・ヒューブナー『スポーツがつくったアジア』(2017年)のように、一国史を超えた観点からの分析もなされるようになってきた。その分析視角も、国家/帝国という観点からするもの、国家間関係と国際関係に注目するもの、「見るスポーツ」と「参加するスポーツ」という国民/民衆から問い直すものまで多様である。

本シンポジウムでは、このような新たな研究をすでにこの分野で実績のある気鋭の研究者の方々から紹介・報告していただき、東アジア近現代における国家・国民とスポーツとの関係性について検討を進めたい。まず藤田大誠氏(國學院大学教授)「帝国日本の神社とスポーツ(仮)」では、戦前日本社会におけるスポーツ空間の形成と国民/民衆のスポーツ実践の展開について、その場の一つとなった明治神宮外苑と明治神宮競技大会の歴史的位置づけを軸に、帝国日本と東アジア領域における神社とスポーツとの関係を報告していた

だく。次に金誠氏（札幌大学教授）「帝国日本のスポーツと民族の「融和」」では、満洲国と植民地朝鮮において、スポーツと「融和」がどのように語られたのかを明らかにする。さらに高嶋航氏（京都大学教授）「劉長春と于希渭——中国と満洲国を代表した関東州生まれのアスリート」は、日本統治下の関東州で生まれながら、それぞれ中国と満洲国を代表してスポーツ界で活躍した劉と于の二人の人生を通して、スポーツとナショナリズムの関係を考える。孫安石氏（神奈川大学教授）「上海租界の万国競歩大会(International Walking Race)をめぐる政治学(仮)」では、租界という中国大陸における特殊な空間において行われたスポーツの有した政治的意味について指摘していただく。そして最後に富田幸祐氏（日本体育大学助教）「1964年東京オリンピックと東アジア——参加・名称・入国をめぐる」では、1964年の東京オリンピックへの東アジア諸国の参加問題についての政府やIOCの対応を見ていくことにする。そしてコメンテーターの平山昇氏（神奈川大学准教授）と小野容照氏（九州大学准教授）からは、イベント・インフラと民衆との関係や、東アジアにおける植民地という視点からのコメントをいただく。

大会シンポジウム実行委員会

歴史資料セッション

「歴史資料としての近代宗教関係文書—保存と活用の実現に向けて—」

趣意書（暫定）

歴史学研究において一次史料が何よりも重要であるのはいうまでもない。行政文書の保存・公開に関しては徐々に法的な整備がなされ、史料として活用するためのデータベースの運用も行われている。また、教育機関や博物館施設での史料保存・活用に関する取り組みも、近年は全国レベルで顕著に進んでいる。

一方、研究者が容易にアクセスできない、あるいはあまり注目されてこなかった史料群も存在する。その一つとして宗教組織が保有する文書を挙げることができる。

宗教組織の内実を知ることのできる内部史料は歴史学研究に大きな知見をもたらす存在である。しかし、宗教組織（教団や寺社の内部）で作成された史料、とりわけ事務文書類はもとより公開や保存を前提としたものではなく閲覧は困難である場合が多い。また宗教組織の外部にいる者が保存や公開、活用を呼び掛けるのはハードルが高い。

宗教組織が保有する多様な史料のうち、近代以前から伝わる史料は別として、近代の事務文書などは”ごく最近のもの”であると見なされたり、歴史的に重要であるという認識が弱かったりすることから、歴史学研究に活用できる文化財的価値のあるものとして顧みられない場合もしばしばある。劣化や保存年限切れによる廃棄で史料が消失してしまうことを防ぐため、史料を保有する宗教組織と研究者が、保存・活用への認識を共有することが必要である。

こうした問題意識から、本セッションでは近代史料の調査を受け入れたり、教団が歴史編纂を行ったりすることで保存・活用を実践してきた寺社の実例を、①その宗教組織において史料（近代に限定しない）がどのように残されてきたのか、②近代史料の保管（整理状況）についての実態・現状、③保存・活用の方針や現用文書をアーカイブとして将来に伝えていくためのルール、という3点に重点をおいて紹介、比較し議論の基礎を整える。

報告は、近代東アジアにおける仏教交流や戦争と宗教の関わりについての史料を取り上げ、整理・保存、歴史学研究への活用を議論する「仏教寺院が保管する史料の研究資源化—水野梅暁と藤井静宣関係史料を中心に」（広中一成氏：愛知大学）、大本教の教史編纂を事例に研究者と教団の関りを検討する「教団史と戦後歴史学：新宗教・大本を事例として」（永岡崇氏：駒澤大学）、そして神社が所蔵する近代史料の活用と保存の実例を、檀原神宮

を事例として考察する『樞原神宮史』編纂事業と所蔵史料の活用」(長谷川怜氏：皇學館大学)の3本である。

上記報告に加え、史料の保存・公開の取り組みについて天恩山五百羅漢寺(東京都目黒区)の堀研心氏から紹介する。

これらの報告を通じ、宗教関係史料の重要性や価値を、まずは史料を保存する側＝宗教組織に広く認識してもらおうと共に、研究者が宗教関係史料を公開・活用するための課題や問題点を考える契機としたい。

会費納入について

会費納入のお知らせと振込用紙(ゆうちょ銀行)の送付は、昨年度より会報を電子配信することになったため、会誌『東アジア近代史』の送付時(6月下旬予定)に同封させていただきます。ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

新規入会者(2019年10月～2020年4月)と会員資格のお知らせ

劉黎(愛知大学大学院中国研究科博士課程)、桑原太朗(早稲田大学大学院社会科学研究所博士後期課程)、十河和貴(立命館大学文学研究科博士課程後期課程)、金子貴純(大東文化大学大学院法学研究科博士課程後期課程) (順不同、敬称略)

なお、3月の常任理事会において、3月末日をもって会費3年度分未納者の退会承認を行いましたことをご報告申し上げます。

寄贈図書(2019年5月～2020年4月)

森靖夫著『「国家総動員」の時代—比較の視座から—』(名古屋大学出版会、2020年1月)
原朗著『創作か盗作か—「大東亜共栄圏」論をめぐって—』(同時代社、2020年2月)
熊本史雄著『近代日本の外交史料を読む』(ミネルヴァ書房、2020年2月)
溝口剛編『近現代東アジアの地域秩序と日本』(大阪大学出版会、2020年3月)

会誌『東アジア近代史』論文投稿の募集

機関誌『東アジア近代史』第25号(2021年6月刊行予定)に掲載する独立論文を募集いたします。ふるってご投稿ください。なお、投稿締切は2020年10月末日、投稿先および問い合わせ先は本会事務局(下記奥付参照)となっております。

* * * * *

[編集後記] 本会も研究大会の延期という異例の事態となりましたが、今後ともご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。会員の皆様におかれましても、どうかご自愛ください。

東アジア近代史学会会報 第48号

2020年5月3日発行

発行 東アジア近代史学会 会長 檜山 幸夫

編集 東アジア近代史学会会報編集委員会

東アジア近代史学会事務局

〒180-8629 東京都武蔵野市境 5-8 亜細亜大学国際関係学部青山研究室内

E-mail modern_east_asia_jm@hotmail.co.jp ホームページ <http://www.jameah.gr.jp/>